

女性の骨盤臓器脱に対する新しい取り組みについて

産婦人科 部長 稲垣 誠

「子宮脱」という病気をみなさんをご存知でしょうか。これは、お下のほうに「こぶ」が触れることで知られている病気のことです。このような状態では、実は下がっているのは子宮だけではなく、膀胱や直腸なども同時に下降していることが多く、最近は「骨盤臓器脱」と呼ぶようになってきました。つまり、子宮だけでなく、骨盤の中にある臓器全体が、加齢などにもなって下がってきている、と考えられるようになってきたのです。

「歩いているときに違和感がある」とか「残尿感がある」「出血などで以前より下着が汚れるようになった」…これらの症状がある場合は「骨盤臓器脱」も疑う必要がありそうです。

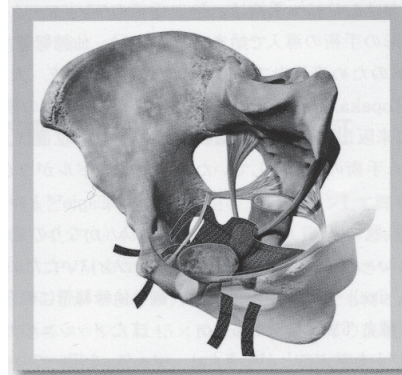
通常はこういった方に対して、伸びてしまった部分の粘膜を縫い縮めたり(会陰形成術)、子宮が下がっている場合には子宮を摘出する手術(腔式子宮摘出術)を行ってきました。ところが、この手術を行っても症状が再発してしまう場合があり、たびたび問題になっています。

そこで、骨盤の臓器がどうやって支えられているのかという研究の成果を元に、近年新しい取り組みが始まりました。骨盤の臓器を支える「靭帯:じんたい」が緩んでしまっているため、これを補強することにより、下がった臓器を再び元の位置で支えられるようにしようという手術です。これは「TVM(Tension-free Vaginal Mesh)手術」とよばれています。

この手術は、骨盤臓器を支えている組織(靭帯)のところに特殊な繊維を織って作られた網状の布(メッシュ)を張りこみ、これが徐々に組織を補強してゆき、下がっていた臓器が再び持ち上げられて本来の位置に還元されることとなります。手術は下(会陰)の方から行います。お腹を開ける(開腹手術)ことは原則ありませんし、キズも目立たないところに数ヶ所できるだけです。この方法だと、症状が再発しにくくなる、と言われています。ちょうど、緩んでしまったハンモックを締め直す作業に似ているでしょうか。

このTVM手術は子宮のみならず膀胱、直腸などが関連しますので、産婦人科だけではなく泌尿器科や、場合によっては外科とも協力して手術を行うことが大変重要です。当院では、手術の前から産婦人科と泌尿器科が連携し治療の中心となって、各科の協力のうえ、患者さんひとりひとりに合った手術を計画し、行っています。

先に書いたような症状がある場合や、この手術について詳しいことがお聞きになりたいときは、一度、産婦人科にご相談されてみてはいかがでしょうか。



治験について

■治験ってなに??

ひとつのくすりが誕生するには、長い研究開発期間を必要とします。その間、培養細胞や動物でさまざまなテストを繰り返し、有効性の確認と安全性の評価を行います。そして、最後の段階でヒトを対象に行う試験が『治験』です。患者さんにご協力いただいて、「本当に安全で有効なのか」、あるいは「どれくらいの量を使用するのが適切なのか」を調べることを目的としています。

■治験は下記のような条件を満たしている病院で実施されます。

- ・医療設備が十分に整っていること
- ・責任を持って治験を実施する医師、看護師、薬剤師等がそろっていること
- ・治験の内容を審査する委員会を利用できること
- ・緊急の場合には直ちに必要な治療、処置が行えること

当院では新薬開発に関する『治験』に取り組んでおります

(文責:薬剤課 課長 木下 操)